

Nara Women's University

60周年を迎えて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学文学部附属幼稚園 公開日: 2011-04-13 キーワード (Ja): 60周年, 今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について キーワード (En): 作成者: 村田,孝次 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/2712

60周年を迎えて

園長 村田孝次

当幼稚園は大正元年（1912）11月1日に、奈良女子高等師範学校付属幼稚園として発足以来、ここに60年を迎えるにいたりました。この間、多くの先人の幼稚園の経営・発展のために投入された努力は、はかり知れぬものがあつたにちがひありません。同時に、当幼稚園に対する国および多くの教育機関、ならびに教育関係者の方々の、今日までの温いご支援に対しまして、心から感謝の微意を捧げるものであります。このような好意の上に築かれ育てられてきた。当幼稚園に身を置く者として、私たちはその使命と責任の重大さを感じずにはられません。

幼児教育の重要性につきましては、この数年とくに加速的に一般国民のあいだにも認識が高まってきましたが、国はこの国民の要請にこたえて、かつてない幼児教育の充実化を実現する事に着手しました。

本年6月、文部大臣の要請に答えて、中央教育審議会の答申「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」が公表されました。これは、わが国で明治初年と第2次大戦直後につづく「第3の教育改革案」として建議されたものでありますが、その中で、幼児教育の重要性が飛躍的に強くなつておられます。

その1つは、幼児教育施設の量的充実であり、答申は5才児全員を入園させるという方向をうちだしております。一方、幼児教育の質の改革による教育機能の向上を目指して、先導的試行が提案されております。4～7才児を対象とする幼児学校を49年度から全国に66校設置し、4才児から高等学校卒業までの一貫した新しい系列校を55校実現したいとの考えを提言しております。

当幼稚園はすでに数年以前から、大学文学部教育学科が中心となつて、附属学校（幼・小・中・高）の一貫した教育の実現の構想を背景とし、幼小一貫の幼児学校教育の実現化のために努力してまいっておりますが、本年度からは、大学文学部教育学科の研究として、付属幼稚園・小学校と相携え、文部省科学研究費による「幼児学校におけるカリキュラムの構成」に着手することになりました。これは同時に、奈良女子大学に幼児教育の研究体制を確立する出発点になるものでなければならぬと考えております。

幼児教育施設の量的な拡充は幼児教育の質の向上によつてはじめて実を結ぶことはいふまでもありません。私たちは大学における附属学校の使命と責務に鑑みまして、幼児教育の現代化のために一層努力することを心に期しております。今後とも、各位の温いご指導とご助言を切にお願いいたします。